

羅 針 盤			方 策		点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	総合	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。 ※上記の項目に替えて又は加えて、評価対象Ⅱ～Ⅶにおける評価項目や学校独自の項目を設定する。評価項目の設定に当たっては、学校運営や教育活動全般等から、学校の特色や7C・7D・7Eを吟味し、特色ある学校づくりの状況が明確になるように工夫する。 ※各学校に応じた評価項目を加える。	①自分の学校を好きだと感じている生徒の割合が、80%以上である。	・積極的な生徒理解、信頼関係づくりに努め、個の特性に応じた指導により学校生活をサポートする。 ・普通科・スポーツ科・芸術科の特色を生かした学校行事の充実を図り、愛校心の育成に努める。 ・習熟度授業の特性を活かし、生徒の個性や学力に応じた授業を行い、達成感や成就感を感じさせる。 ・専門教科の面白さを実感させ、各生徒が自ら進んで学べるよう、少人数指導を効果的に実施する。	B	B	B	・生徒理解については学年団、教育相談係等の日頃の取り組みにより、生徒が学校を好きであり、教職員に対する信頼についても80%以上の達成度となっている。次年度以降も生徒の個性を伸ばせる教育課程編成及び学習環境作りに取り組んでいく。 ・普通科における少人数学習に対する評価が昨年同時期に比べ低下している。要因として上位層の求めるレベルに実感が追いついていないことが挙げられる一方で、生徒の基礎学力、学習習慣及び学習意欲が伴わないことにより、少人数学習についても効果を実感できていない実態もある。どの層を中心に授業を構築していくのか、どのような授業により個別最適な学びを担保していくかが課題。また、少人数のクラス編成の方法にも課題があり、次年度に向け検討を要する。	・芸術科、スポーツ科の存在自体が十分特色を持っていると思う。校内に生徒の作品がたくさん展示されていて、みんなで学校をつくっていることが伝わります。 ・少人数指導についてのアンケート結果が前年を下回っているものの、専門性は高まっていると感じた。普通科においては、一人ひとりの生徒に寄り添って指導されていると感じたが、それぞれの学力に応じた授業の構築が必要だと思う。 ・生徒と教職員の信頼関係がしっかりしていると思う。	
		②習熟度別授業（数学・英語）や専門教科（体育・音楽）の授業に満足している生徒が、85%以上である。							
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③生徒の発言・発表や活動の場面に授業に取り入れられている生徒が80%以上である。	・情報の活用、社会的事象に対する考察、科学的概念を使用した探究等の観点から発言・発表や活動の場を積み込むなど、授業についてスパイラルアップを図る。 ・文化祭等の行事において、自身の身に付けた力を活用・実践するよう努める。 ・「朝の読書」やLHR読書会などをとおして、読書習慣の確立を図る。推薦図書リストを発行し、新着図書の案内等、図書館からの情報発信を実施し、読書の楽しさを幅広く伝えられるよう努める。	C	C	C	・授業において生徒の発言・発表の場面が多く充実感を感じている生徒は78.7%に留まり、目標未達成。授業では生徒エージェンシーを育む観点から生徒自身に発言・発表をさせ、時には失敗も含めた経験も必要であると言える。しかし、現状、生徒の発言・発表の場面で内容の希薄さが課題でもあり、総合的な探究の時間との連携等も行いながら、生徒自身が目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力を高めていけるよう支援することが課題。 ・朝の読書により月に1冊程度の読書をする生徒の割合は上昇したものの、生徒が1日にスマートフォンやタブレットを使用している時間は大半の生徒が3時間以上と非常に多く比較にならない。読書量そのものの低下もさることながら、「文章を読む」ことそのものが難しいことになりつつある状況には危機感を抱いている。朝の読書や授業における教材等を活用しつつ、生徒に文章をじっくり読むことを身に付けさせていくことが課題である。	・課外授業や英検、大学入試に向けた指導については成果を上げているため、今後は自宅における家庭学習の習慣を身につけさせることが必要だと思う。自ら学習しようとするきっかけや必要感を学校で指導できると良いと思う。 ・次年度の課題を読み、どこも同じ悩みを抱えていることに共感する。いろいろな手法で生徒の学習サイクル確立のために努力されていることに感謝いたします。 ・すぐに大きな結果が出ないかもしれないが、一人ひとりに進路の目標を持たせてチャレンジさせることはとても大事だと感じる。目標や好きなことに対しては、大人も子どもも関係なく夢になれると思います。 ・生徒自身の学習能力向上に対する努力が少ないうえに見受けられ、指導が大変難しいと思われる。	
		④「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。							
3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤家庭学習の内容の充実を図り、設定した目標値を達成している生徒が60%以上である。（平日、1,2年生は80分、3年生は120分）	・学習のサイクルの確立を目指して、①学習の目標とそれを達成するための手段、②課題・やること一覧表、③学習量調査、④成績目標と振り返り、の4つのシートをファイルに保管し、次のテストへの取り組みに活かす。 ・進路実現のための漢字検定・英語検定の重要性を認識させるとともに、目標を高く持ちチャレンジすることの大切さを認識させる。	D	D	D	・自宅での継続的な家庭学習の習慣が身に付いている生徒が少ないと思われる。学習への取り組み方、学習の意義について伝える機会を複数回設ける必要があると感じている。入学後の早い段階で、高校での学習の仕方について説明することも必要であると思われる。R6年度から始めた、定期考査に絡めての学習のサイクル確立については、R7年度も継続実施していく。 ・漢字検定は学校での実施をしなくなったこともあり、2級0名、準2級2名。英語検定については2級2名、準2級4名と達成度は低い。ただし、1、2年生が全員受験した第3回の結果が出ていないため今後増加が予想される。自身の付加価値を高める意味からも受検の意味や重要性を理解するための指導が必要である。		
		⑥日本漢字能力検定並びに実用英語技能検定の合格者が、それぞれ2級15名以上、準2級が50名以上である。							
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦学校生活全般を通じて、あいさつ・身だしなみ・遅刻防止に関する指導を進め、あいさつができるという評価をしている生徒が85%以上である。	・教職員から率先してあいさつし、身だしなみに関する声かけを行うことにより、生徒自ら習慣化できるように学校づくりを目指す。また、登校時や下校時に教職員と生徒と一緒にあいさつや身だしなみ、遅刻防止に向けた啓発活動を行うことで、生徒が能動的に学校をより良くしようとする意思を育む。 ・定期的にいじめ対策委員会を開催し、生徒情報の共有を図るとともにいじめの未然防止について方策を更新していく。また、職員研修を積極的に開催し、教職員が問題意識を常に持つ態度や課題発見、課題解決するために必要な情報を常にアップデートできるように組織的に取り組んでいく。 ・様々な情報交換や事例学習等を迅速かつ継続的に行うことにより、個の事象に応じた適切な対応や、生徒も教職員も他者と互いに尊重できる態度の育成を目指す。	B	B	B	・あいさつ、清掃等への生徒の意識が高まっている。年齢からしても個人の興味に意識がいきがちなので、リアルな交流活動を大切にしていきたい。 ・端末を活用して生徒一人ひとりのつぶやきを拾うことは大変なことと思いますが、生徒にとってつぶやける場所があることは安心感と自分の存在感を改めて確認できる場所となっていると思う。定期的に行うアンケートも有効かと思うが、年齢が上がれば上がるほど本音と違えて前を思いながら書くことは難しいと感じている。 ・あいさつと返事が基本だと思っている。90%以上の生徒が自覚を持っていることが素晴らしいと思う。 ・西邑楽高校が好きだと回答する生徒が85%以上という高い結果が、学校全体の雰囲気が良いということの表れだと思う。		
		⑧学校はいじめの防止や早期発見に積極的に取り組んでいると感じている生徒が、90%以上である。							
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨教職員全員が、自身の人権感覚を高め、一人一人の生徒を深く理解し、尊重しあう人間関係を育てている。	・様々な情報交換や事例学習等を迅速かつ継続的に行うことにより、個の事象に応じた適切な対応や、生徒も教職員も他者と互いに尊重できる態度の育成を目指す。	B	B	B	・学校評価アンケートでは、90%以上の生徒が「自身の人権感覚を高め、一人一人の生徒を深く理解し、尊重しあう人間関係を育てるよう努めている」と回答している。教職員向けの研修をより一層充実させるとともに、細やかな情報共有や意見交換できる環境づくりを通じ、互いを尊重できる人間関係づくりに努めたい。		
		⑩生活リズムを振り返ることによって規則正しい生活を送り、健康の保持・増進に努めている生徒が80%以上である。							
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が、70%以上である。	・生活習慣等に関するアンケートを実施し、自身の生活習慣を振り返る機会とする。 ・部活動に加入することの意義やメリット、喜びを多くの生徒が明確に感じられるために、生徒の活躍や活動の紹介を充実させていく。また、教職員や保護者、地域の方々からの応援を日常的に感じることができるよう具体的な仕掛けを作っていく。（HP、SNS発信、地域交流、マスコミ対応、活動公開等）	C	C	C	・アンケートを2回実施し、生活習慣が改善傾向にある生徒がいることも見受けられたが、体調不良による欠席者等が依然として多いため、80%以上の生徒が健康の保持・増進に努めているとはいえない。次年度もアンケートを2回実施し、生徒自身が自分の生活習慣を振り返る機会を設けるとともに、保健便り等を利用して規則正しい生活を送ることの大切さを指導していく。 ・部活動の加入率は60%であったが、ほぼ毎日活動し、充実していると回答している生徒は70%であった。生徒・職員が協働し、活動の質を向上させていくための活動報告やリーダー研修などを行っていくことが望ましい。		
		⑫学校から家庭へ発信している進路情報、保護者を対象とした進路行事について、その時機、内容に満足している保護者が、80%以上である。							
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬進路行事や進路学習、担任との二者面談は、進路選択に役立っていると感じている生徒が、90%以上である。	・各学年毎に、それぞれの学年に対応した内容の保護者説明会・講演会を実施する。また、PTA総会時に、本校の進路状況報告を行う。進路決定までの流れを、保護者にも説明する機会・方法を設定する。 ・各学年の進路行事の柱となるものを中心に、事前事後指導の計画や・行事の目的を明確にしたLHRの計画を作り、各学年と共有する。	C	C	C	・R6年度については、各学年に1回ずつ、その時期に必要なと思われる進路講演会・説明会を実施することができた。これについては、R7年度も継続したい。現在、「進路の手引き」を作成中であり、これにより、学校・生徒・家庭間の進路情報共有の改善につながると思う。 ・設定目標値を90%に設定したために、達成に至らなかった。アンケート内容を個別に見ていくと、進路学習や二者面談、3年生の進路別説明会においては85%前後の結果である。進路行事や探究学習が80%未満であることから、進路行事の意味について考える機会を設けたり、探究学習の内容について、各個人の興味関心に基づく内容にする時期を早く、進路選択につながるよう、内容を深掘りする展開にできるとよい。		
		⑭学校から家庭へ発信している通知、便り等について、その時機、内容に満足している保護者が、80%以上である。							
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮本校のホームページは、進路選択をするうえで役に立ったと感じている中学生が、80%以上である。	・家庭、地域社会からの要望や学校評価アンケート等を参考にし、通知や便り、PTA行事等における情報発信を一層充実させていく。 ・担当者の業務を見直し、合わせて、更新の手順の簡略化を進めるにより、ホームページの更新頻度を増やす。	B	B	B	・地域の小・中学生との交流事業により、一層西邑楽高校に対する興味や理解が深まり、良いことと思う。 ・中学生のニーズについては難しいかもしれない。HP等で楽しいと感じ、実際に通ってみたら良かったと思われることが理想かもしれない。HPの更新は面倒でも、学校関係者以外が西邑楽高校の姿を知るチャンスなので、継続してもらえると良いと思う。		
		⑯授業でICT機器を活用が進んでいると感じている生徒が、80%以上である。							
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰授業でICT機器を活用が進んでいると感じている生徒が、80%以上である。	・chromebookを使用した授業に対する生徒の経験が高まっている前提を認識する。その上で機器の効果的な活用方法について学校内外の先進的な取り組みに係る情報共有、効果的な活用場面の設定・活用に向けた意識・知識・技術の向上に取り組む。 ・Google Formsの活用を推進し、調査・アンケートのデジタル化並びに集計作業の簡略化を図る。 ・配布資料等をPDF化し、ホームページやGoogle Classroomを活用するなどして、ペーパーレス化を進める。 ・教材や分業業務の資料をデジタルデータとして共有・整理し、引き継ぎ等の効率化を図る。	C	B	B	・授業にICTが効果的に活用されていると感じている生徒に割合は84.5%となっているが、実態としては効果的とまでは言えず、改善を要する場面も多い。特に本年度からBYODが開始され、保護者負担により学習端末を準備することとなった。これを踏まえ、授業の質のみならず、費用対効果の観点からも、これまで以上に効果的にICTを活用する授業を準備・実践する必要がある。 ・82.1%がICTを活用した業務改善について実感しており、数値の面では目標は達成している。しかしその一方で、実際には業務効率化のために新たな取り組みが必用になる場面が多く、ICT活用を得意としていない職員には負担が大きいことも事実である。業務の効率化と複雑化が表裏一体というジレンマを克服することが課題である。		
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。							
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。									